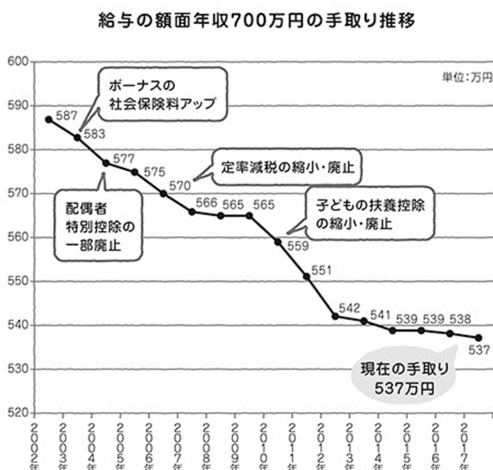


老後 2,000 万円問題 正論？

図 「手取り」は、こんなに減っている！



※40歳以上で専業主婦の妻と15歳以下の子どもが2人いる会社員の例、健康保険は協会けんぽ加入として試算
©試算及びグラフ作成 深田品恵

手取りは15年間で50万円減っている！

れてしまうのは、どうなのかなと思ってしまいました。

もっとも、政府は年金制度を100年安心できるシステムと言っていますので、このような真実はあまり表に出したくはないでしょうが、そもそも年金のシステムは、働く人たちが支える賦課方式になっております。積立部分もありますが、ごく僅かです。つまりは、年金収入を増やすには働く世代から、もっと保険料を徴収しろという事になります。上記表は、年収が700万円だった場合の手取り額の推移ですが、ここ15年で約50万円減っています。結構すごい事だと思います。また、日々生活をしていると中々気づかない部分でもあります。

しかしながら、これは年金システムを維持する上では仕方のないことですし、サラリーマンは源泉徴収されるのでどうすることも出来ません。そうかといって、無駄を容認するわけではありません。権力に対する監視は絶対必要です。そして、少子高齢化は止められないという現実も受け入れなければなりません。つまりは、働く世代の税負担は今後も増加し続けることが想定されます。

10月には消費税も増税されます。日本景気は、良いとも悪いとも言えない状況だと思いますが、負担が増えることに変わりはありません。手取り収入が減少する中、嘆くことは簡単ですが、自分が出来る事をするしかありません。そうはいっても、価値観は様々です。人間いつ死ぬか分からないから、好き放題にするのも人生です。100歳まで生きることを想定する生き方も有りだと思います。しかしながら、政治的な要因なのか、利権によるものなのかは分かりませんが、正論を言う人が、バカを見るという事にはなあってほしくないと思います。一方で、批判をすると一時世間の注目は集められますが、対案がなければ、絵に描いた餅ということになります。

塩田了文